

医療最前線 ー膠原病・感染症内科の取り組みー

関節リウマチ治療の進歩

膠原病・感染症内科 科長 岡山 昭彦

関節リウマチは膠原病といわれる疾患のなかでも最も患者数が多く、全国に約70～100万人といわれています。宮崎県だけでも1万人近い患者がいる計算になります。20歳から50歳ぐらいの女性の方に多く、3箇所以上の関節が腫れ上がって痛む、朝起きたあと手がこわばる（ごわごわして動かしにくい）、微熱があって疲れやすいなどの症状が3ヶ月以上続くと疑わしいということになります。昔から関節や筋肉が痛む疾患を総称してリウマチと呼ぶ習慣がありました。このため節々が痛いとすぐに「リウマチがでた」といわれる方がありますが、関節の痛む疾患には、変形性関節症をはじめとした関節リウマチとは異なる種々の疾患があるので、自己判断せずに内科や整形外科で専門的な診断を受けることが必要です。

関節リウマチの治療は安静などの生活療法、薬物療法、理学療法、そして手術療法によって行われます。この中で薬物療法についてはここ数年で飛躍的な進歩がありました。関節リウマチに用いる薬剤としては、痛みを和らげる消炎鎮痛剤、1～2ヶ月かけてゆっくりと関節の炎症を鎮める遅効性抗リウマチ薬と呼ばれる薬、また強い炎症があるときに用いるステロイド剤などがあります。また最近抗サイトカイン薬という新しいお薬が開発されました。

痛みを和らげる消炎鎮痛剤にはいろいろな種類があります。古くから使われているアスピリンなどのお薬には胃腸や腎臓の障害が起こりやすいという難点がありました。しかし薬剤の進歩によりこれらの副作用はかなり軽減されています。飲み方も1日3回から1回でよいものが開発されています。また消炎鎮痛剤を飲んでいただいている患者さんに合併することのある胃潰瘍についてもプロトンポンプインヒビターと呼ばれる薬剤を使用することによって速やかな効果が得られるようになっています。また次世代の消炎鎮痛剤としてCOX2阻害薬という副作用の少ない薬剤の開発が進んでいます。

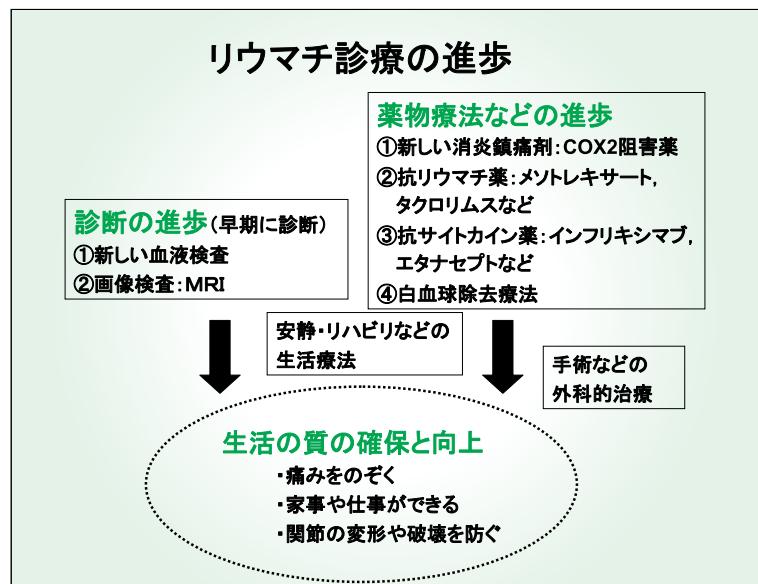
遅効性抗リウマチ薬としては、ここ数年メソトレキサートという薬剤が基本薬として使用されるようになりました。この薬剤は内服すると1～2ヶ月のうちに効果をあらわし、リウマチの勢いを鎮めていきます。これまでのほかの薬剤よりも効果が安定しており、長い間使用しても効果が衰えにくいのが特徴です。副作用は血液中の白血球数の減少や、肝障害が起つたりすることに加え、まれに間質性肺炎と呼ばれる重症の肺障害を起こすことがあります。

す。このためこの薬剤はリウマチ治療に熟練した医師の診察のうえ、充分な説明を受けて投薬を受けていただきます。このほか数種類の遅効性抗リウマチ薬は効果があることが証明されており、これらを組み合わせた治療を行います。

数年前に国内においても使用可能となった新薬として抗サイトカイン薬があります。現在使用できるのは1～2ヶ月に1回点滴をおこなう薬剤（インフリキシマブ）と週に2回皮下注射する薬剤（エタナセプト）の2種類です。強力な薬剤ですので、熟練したリウマチ専門医から処方されます。いずれの薬剤も関節リウマチの熱や腫れ、痛みをもたらす原因物質であるTNF α という物質を押さえ込む作用があり、これらの症状を劇的に改善します。さらに良いことにこれらの薬剤が有効であった患者さんでは、関節リウマチによる骨の破壊も押さえ込まれ、場合によっては破壊された骨の再生もみられるという、これまでの薬剤ではなしえなかつた効果が報告されています。このため、これらの薬剤を用いることにより関節リウマチの完全な治癒が可能になるのではないかと大変期待されています。問題点は、注射薬であること、結核のような感染症が起こることがあること、そして大変に高価であることがあります。しかしながら類似の薬剤の開発が進んでおり、今後選択の幅が大きく広がり、また価格も低下することが期待されます。

薬剤以外の新しい治療法として日本で開発された白血球除去療法があります。これは患者さんの血液から炎症に影響を与えていたる悪い白血球を取り除き、必要な赤血球などは体に戻すというもので、週1回の治療を5回行って効果を判定します。この治療法は内臓障害や過敏症などで薬剤の投与ができない患者さんに用いられ、効果をあげています。

以上のような治療法は5～6年前まではどれも国内では使用できなかつたものばかりであり、関節リウマチの治療法はここ数年でまったく様変わりしたといえます。また本稿では述べませんでしたが、新しい血液検査やMRI装置を用いることにより関節リウマチの早期の診断も可能となっていました。私たちの膠原病・感染症内科ではこのような最新の診断法・治療法を組み合わせ、整形外科の先生方とも協力しながら関節リウマチの診療を行っています。もちろん現在でも関節リウマチは難しい病気の一つには違ひありませんが、最新の検査で早期に診断し、それぞれの患者さんにあわせた最良の治療を行うことによって、関節の痛みや変形を防ぎ、毎日を充分にエンジョイできる生活の質の確保を目指しています。さらにこれから数年のうちに期待の新薬が次々に使用可能となっていきます。現在関節リウマチでお悩みの患者さんには是非希望を持って療養に臨んでいただきたいと思います。



膠原病・感染症内科病棟の紹介

5階東病棟 副看護師長 岩元 真奈美

膠原病・感染症内科病棟は、5階東病棟にあります。患者さんは常時10～15名入院されています。

病棟の特徴は、流行感染症対策のため陰圧空調設備を整えた病室があることです。関節リウマチや全身性エリテマトーデスをはじめとする膠原病や間質性肺炎などの呼吸器疾患の患者さんが診断の確定や治療のために入院しています。

膠原病は、身体のいろいろな臓器に慢性的な炎症が起きる病気です。主な症状は発熱、筋肉・関節の炎症でリウマチ性疾患とも称されます。原因が不明のため難病として扱われ、多くが特定疾患に指定されています。主な治療は、薬物療法（消炎鎮痛剤、ステロイドホルモン剤、免疫抑制剤）です。薬物療法は副作用に気をつけなければなりません。患者さんのなかには、ステロイドホルモン剤の副作用に対して、強い恐れを持った方がいらっしゃいます。私たちは、患者さんに薬を正しく理解していただき、安心して治療が受けられるように「ステロイドを内服している患者様へ」というパンフレットを作成し、副作用や感染予防について指導しています。

また、膠原病は慢性の経過をたどることが多く、長期の入院を要します。そのため、患者さんやそのご家族の方は治療や副作用、今後の生活への不安や悩みを持っていらっしゃいます。私たち看護師は、そのような患者さんやご家族の皆様のご相談に応じ、患者さんが安心して退院できるように医療ソーシャルワーカーと連携して対応しています。



5階東病棟パンフレット「ステロイドを内服している患者様へ」より

2層3段自走式立体駐車場を整備いたします

現在、本院では病院建物の増・改築工事を行っております。その一環として駐車場の狭隘化を解消するため、外来患者さんを対象とした立体駐車場を整備いたします。

立体駐車場の新設工事期間中におきましては、第2外来駐車場が使用出来なくなりますが、仮設駐車場を整備いたしますので、そちらの方に駐車して下さい。

工事期間中、皆さまには何かとご迷惑・ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。

<立体駐車場の概要>

駐車場の形式：2層3段自走式立体駐車場

駐車台数：約400台

整備場所：北西側の第2外来駐車場（下図参照）

完成予定：平成19年6月末

<立体駐車場の新設工事期間>

工事期間：平成19年3月10日（土）～平成19年6月30日（土）【予定】

（この期間中は、第2外来駐車場が使用出来ませんので、仮設駐車場をご利用下さい。）

<仮設駐車場について>

仮設駐車場 • 整備場所：基礎臨床研究棟北側（下図参照）

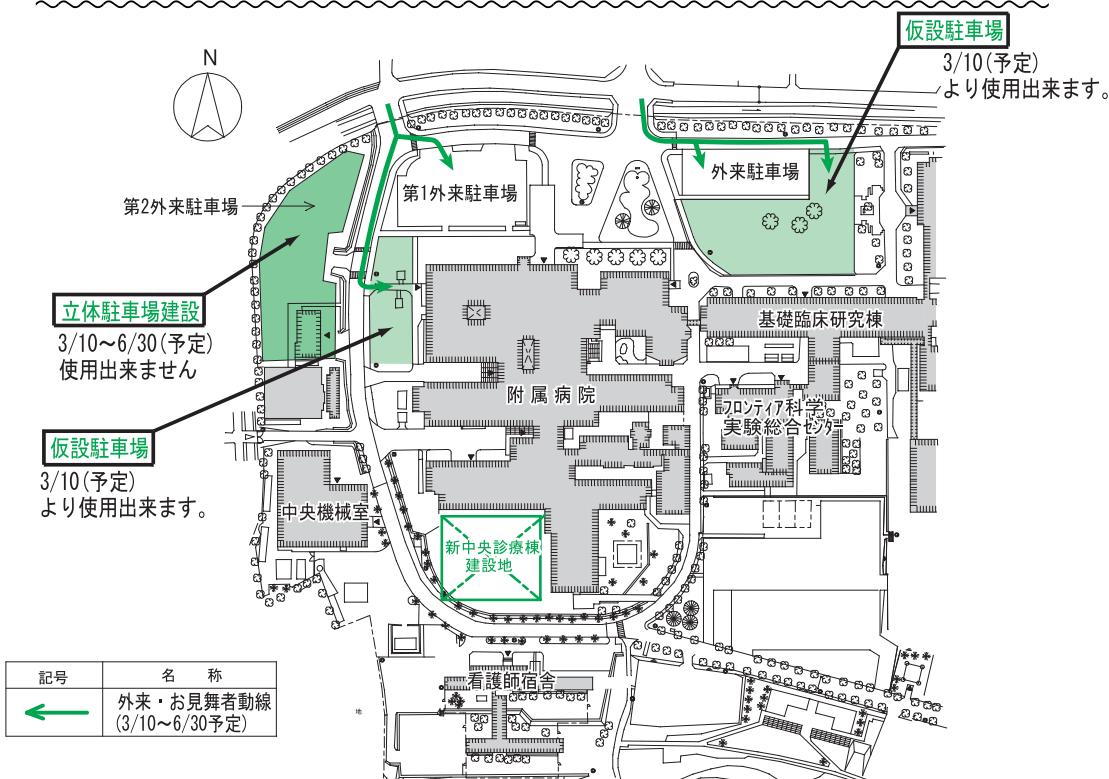
駐車台数：約135台

• 整備場所：附属病院外来棟西側（下図参照）

駐車台数：約50台

進入経路 下図を参考して下さい。

※第1外来駐車場は午後9時には施錠しますのでご注意下さい。



「キャンプ王国宮崎」ならではの贈り物

～福岡ソフトバンクホークスのキャラクターが病院訪問～

平成19年2月1日（木）本院小児科病棟を福岡ソフトバンクホークスの人気キャラクター「ハニー」と「ハリー」が慰間に訪れました。突然の大きな訪問者に子供達は大喜びで、プレイルームでぬいぐるみやシールのプレゼントをもらったり、記念の写真に納まったりしました。

また、ベット上安静の子供達も「早く元気になってね」と励ましを受け、思いがけない訪問者とのふれあいの時間を楽しみました。



栄養管理室から

おいしく楽しい食事を目差して

病院の食事は治療の一部ですが、毎日の食事を楽しく食べて頂くために、メニューに季節感や郷土食を取り入れて、患者さんの食欲を増すように工夫を凝らしています。例えば、職員手作りの季節に合わせたメッセージカードを添えたり、行事食をお出しすることなどです（表1）。

3月は雛祭りですので、ちらしずし、雛あられ、菜の花のお吸い物などをメニューに入れ、皆様に少しでも春を感じて頂けたらと思っております。

これからも栄養管理室では、毎日の食事が患者さんの治療のお役に立てるよう、様々な取り組みを行っていきたいと思います。お楽しみに♪

1月	お節料理 お雑煮 七草粥 鏡開き 成人の日	7月	七夕
2月	節分 バレンタインデー	8月	土曜丑の日 お盆
3月	雛祭り ホワイトデー	9月	重陽の節句 敬老の日 中秋の名月 お彼岸
4月	花見	10月	開学記念日 運動会
5月	子供の日	11月	七五三
6月	開学記念日	12月	冬至 クリスマス 大晦日

表1



雛祭りのメニュー



患者さんの声に対する回答



本院では、1階外来ホールや各病棟等に投書箱を設置して患者さんの声をお聞きし、より患者さんの立場に立った医療やサービスをご提供したいと考えています。お寄せいただきましたご意見に対しては、随時、投書箱の横に回答を掲示していますが、このコーナーでは、その一部をご紹介させていただきます。

今後とも、ご意見やご不満な点がありましたら、遠慮なくお寄せ下さい。

ご意見

本日(1/30)10時頃、第三駐車場に学生さんが駐車され、堂々と学校へと歩いて行きました。あそこの駐車場は、学生用ではなかったかと思いますが…。だいたいこの時期になると駐車している学生を見ます。(4月頃も多いです)いったいどういう指導をしているのですか?病人は、遠い所に停めろと言うのですか?こっちは、病気で健康ではありません。具合が悪くても遠い所に停めろと言うのですか?それでなくても駐車場が少ないと思っているのに…学生のモラルのなさにがっかりします。きちんと指導徹底して下さい。

回答

本学部では、駐車場スペースの都合により原則として所定の手続きを終えた3年生以上に限り学内の車両乗り入れを許可し、指定された駐車場に駐車許可証を提示して駐車するよう指導しています。しかし、ご意見のとおり、学生のモラルが低下しており1・2年生でも無許可で車両を乗り入れております。今後、このような事がない様に、掲示板等で注意を促す一方、駐車場の見廻りを行い徹底した指導を行っていく所存です。

本院の理念

- 患者中心に、心のこもった最適な医療の実践
- 地域の人々の要求にこたえる医療の実践
- 先端医療の開発と提供
- 幅広い知識・確かな技術を備えた人間性豊かな医療人の育成
- お互いを尊重し、力を合わせて医療に取り組み、働くことが楽しい病院づくり

患者さんの権利

本院は患者さんの権利を守ります。

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受けることができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。

● 編集事務 ●

宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携推進センター

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200
電話(0985)85 9165